

町村協会だより ④④

(十勝支庁管内足寄町)

母子寡婦会と合同で事業を展開

第四十四回目として紹介します協会は、町村としては日本一広い面積の千四百八平方キロメートルを擁し、豊かな森林資源と四季折々の風景を彩りよく湖面に映し出す神秘的な湖「オンネトー」、巨大なラワンブキ、国内最大級の動物化石博物館など有名な足寄町身体障害者福祉協会(近藤午郎会長)です。同協会は昭和二十六年四月に設立、

三十七年には規約が制定され、六十二年創立三十五周年記念の式典



十勝地区スポーツ大会に参加

開催と記念誌発行を行いました。当時は百七十五名の会員を擁していましたが、現在は五十五名となっております。

役員及び執行体制は、近藤会長をトップに副会長三名、理事七名、監事二名、地区連絡員若干名となっております。

主な年間行事及び活動内容

▼総会・役員会・母子寡婦会合同役員会



レクリエーション交流会

- ▼十勝地区スポーツ大会参加
- ▼十勝東北部三町身障協会交流会(三町持回り)ミニスポーツと懇親会
- ▼レクリエーション交流会
- ▼厚生旅行(母子寡婦会合同事業)
- ▼高島歴の販売(事業資金として販売)
- ▼赤い羽根街頭募金協力
- ▼各種研修会等参加

足寄町身体障害者福祉協会PR

同協会

は、親睦を図ることを主として活動していますが、会員の高齢化及び減少もあり、前年度より母子寡婦会と合同で事業を展開しています。



厚生旅行(母子寡婦会合同)



赤い羽根街頭募金に協力

人は荷物を運び、目の不自由な人には手を差し伸べまた車椅子を押す等助けたり助けられたりと「お互いさま」の精神で楽しく交流しています。レクリエーション交流会は体育の日に近い日に健康づくりを目的に、パークゴルフ、ミニゲームを行い、青空の下で楽しんでいきます。またボランティア活動として赤い羽根街頭募金に協力しています。なお、収益事業として高島歴を会員はじめ会社、知人、友人等に年間三百冊を販売し、八万円程度の貴重な活動資金を得ております。

厚生旅行(母子寡婦会合同) 赤い羽根街頭募金に協力